速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報

ＪＲ総連 東北地方太平洋沖地震 緊急対策本部情報

2011 年３月 29 日

19：00 発行　№25

発行：全日本鉄道労働組合総連合会

命を繋いだ レールマンの奮闘

地震や津波の発生で、残念ながら多くの人々が犠牲になっています。その時、ＪＲには多くの列車が走っていました。そして津波にも巻き込まれました。

その時、レールマンたちは瞬時の判断で、生死の境をくぐり抜けました。その状況の一部をお伝えします。

● 大船渡線（盛駅－大船渡駅間）上り 338D 列車
盛駅を出発すると前方のブロック塀が倒れるなど大きな揺れ。防災放送から大津波警報が聞こえ、約 20 名の乗客を避難誘導。小学校への避難指示だったが、高台の中学の方が安全だと地元のアドバイスを受ける。途中、動けなくなっている人を助けながら避難していると、波が２～３メートル先まで押し寄せてきた。しかし、間一髪で助かる。翌日、ＪＲ東労組青年部が迎えに来てくれた。

● 石巻駅
駅で揺れを感じ、駅長らと停車中の列車の乗客を避難させる。列車を降りた乗客も避難誘導。その後、津波の放送。指定避難場所の神社と公園に乗客らを誘導した。押し寄せた津波は轟音をあげて民家などを流す。その後、石巻高校に避難し、２日間、ポテトチップスなど、わずかな食糧で過ごしたのち、仲間のもとに生還した。

● 仙石線(野蒜駅―東名駅間)上り 1426S 列車
野蒜駅を発車直後に地震。300 ㍍くらい先に停車。50 人の乗客を海岸から１㌔の小学校に避難誘導させた。その後、仮設トイレの設置などの手伝いを行なっていると津波が押し寄せる。２階に避難すると、１階は流される。水が引いた後、校庭に流された人の救助を手伝ったが、運転士は不明。翌朝になって、バスケットボールのゴールに掴まっていたところを、２階に避難した住民に引き上げてもらい、助かったという運転士が見つかった。

● 常磐線(浜吉田駅－山下駅間)上り 92 列車
防護無線で非常停車したところ、津波に襲われる。機関士の目の前を民家や車が流されていく。コンテナ貨車 20 両も流されたが機関士は運転室で必至に耐えた。やや、揺れが収まったところで脱出を決意し、泥だらけの海にクビまで浸かり、たどり着いた民家の２階で恐怖と寒さに翌日までしのぎ、無事、生還した。

● 常磐線(新地駅)上り 244M 列車
駅を発車前に大きな揺れ。駅は壊れ、事務所は散乱。乗客を新地町役場に避難させたのち、津波が押し寄せてくるのを発見。２名の車掌と１名の運転士はすぐに跨線橋に避難。架線まで波が押し寄せ、轟音とともに４両編成の電車は流される。寒さと恐怖の中、跨線橋で一夜を明かす。